

図 53-A

羊水染色体検査前の主な説明担当者  
生データ

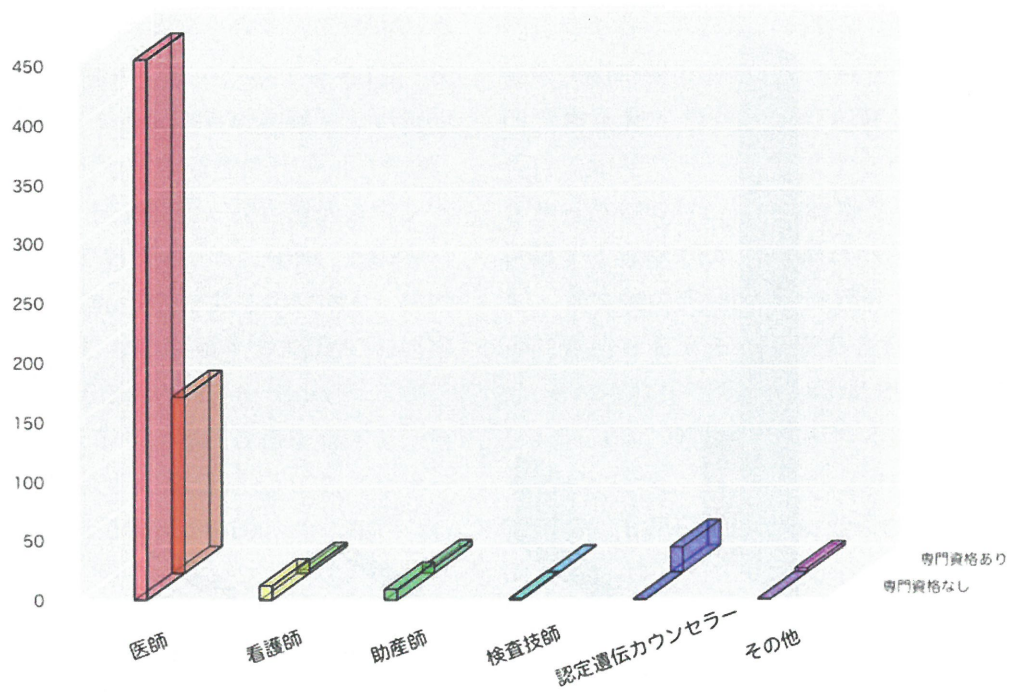


図 53-B

羊水染色体検査前の主な説明担当者  
横向きに和が1

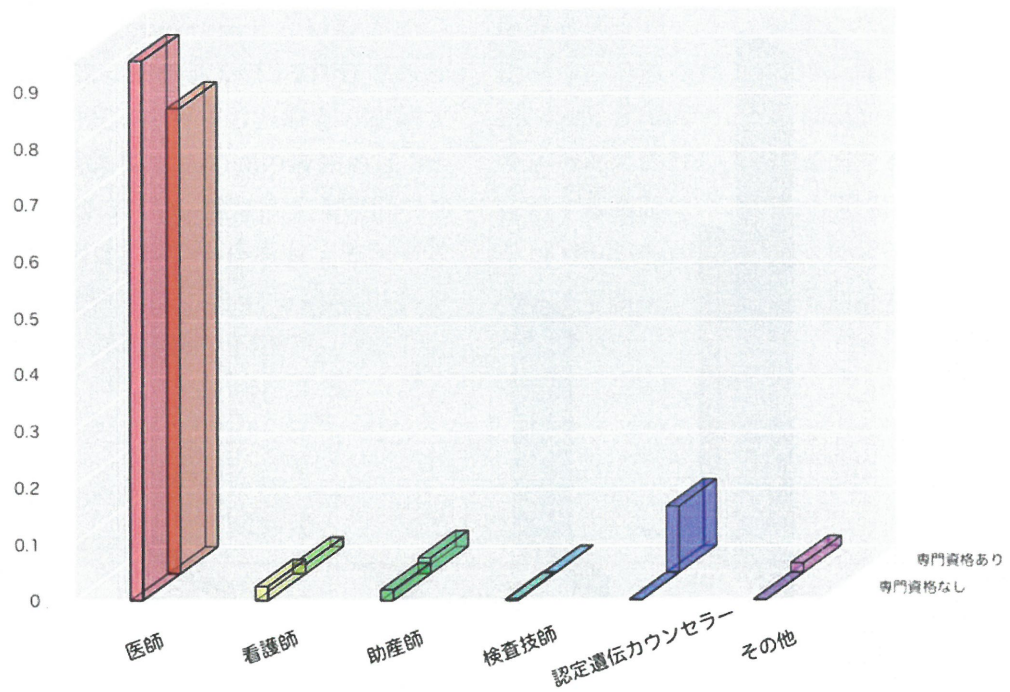


図 54-A

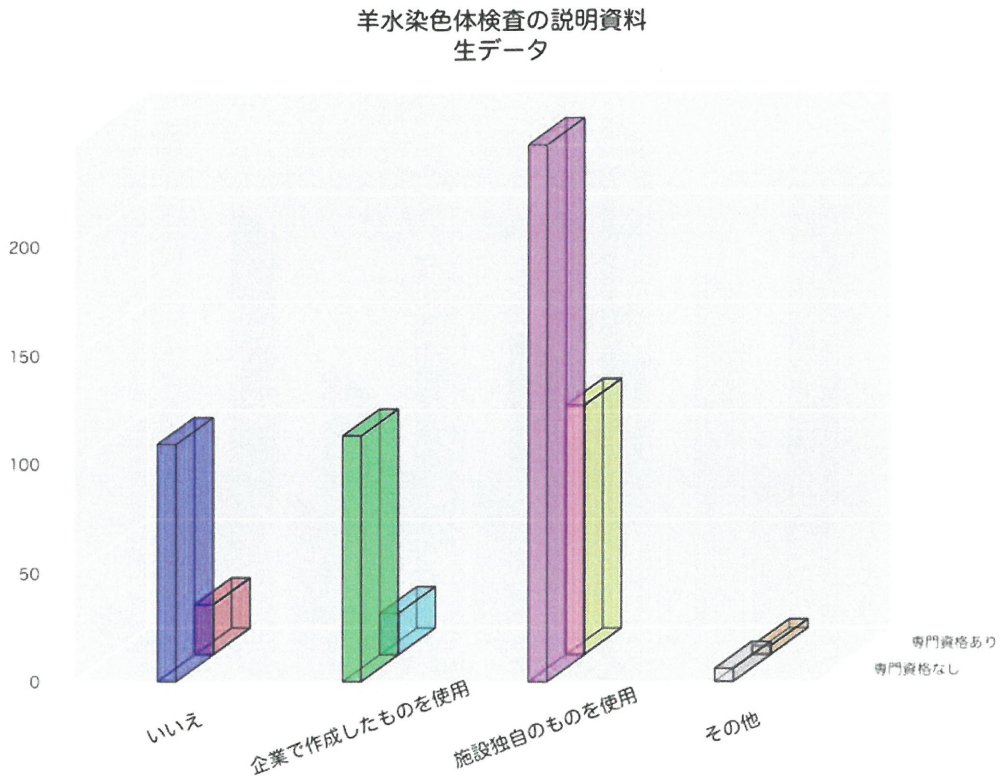


図 54-B

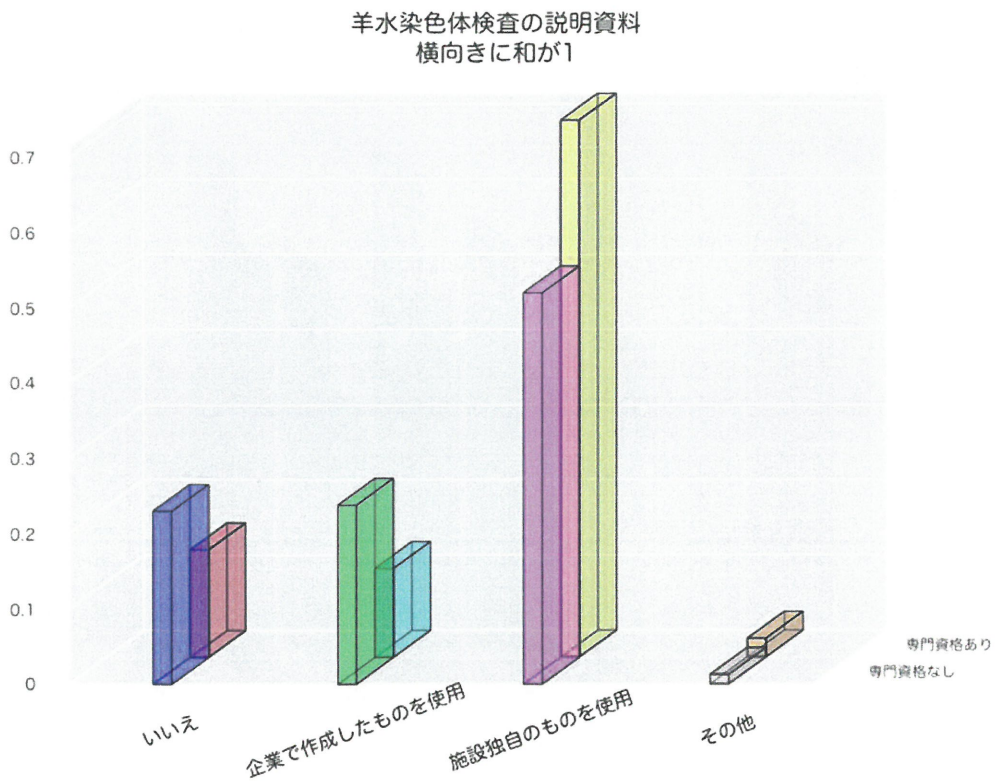


図 55-A

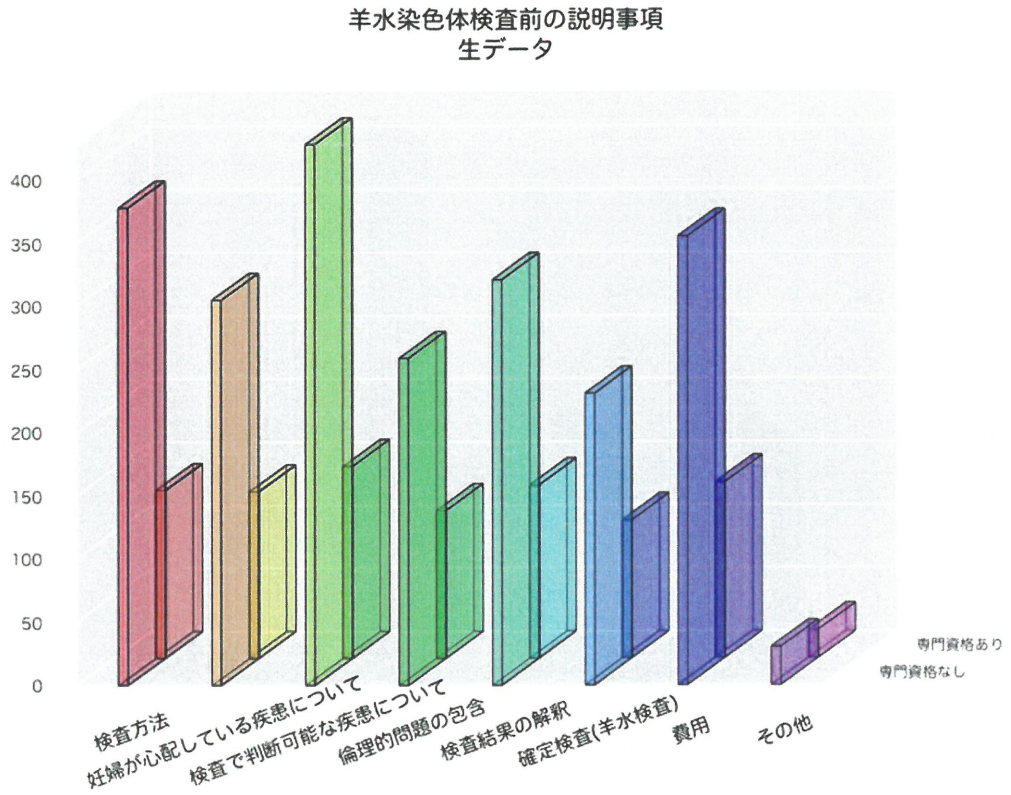


図 55-B

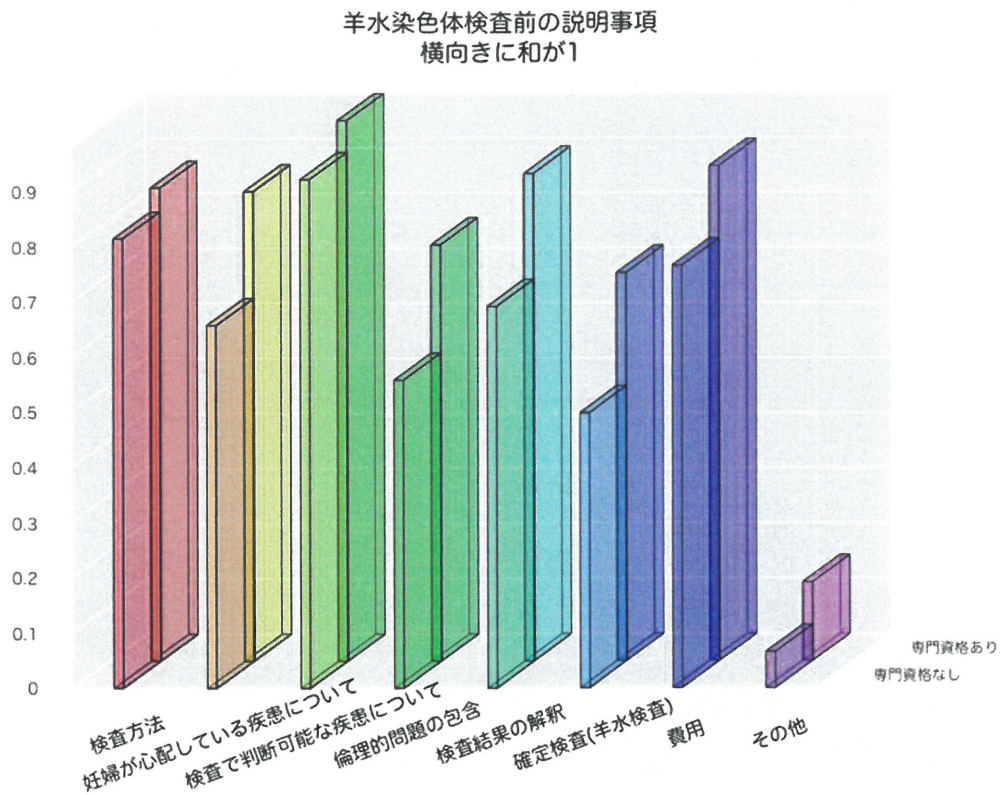


図 56-A

羊水染色体検査後の主な説明担当者  
生データ

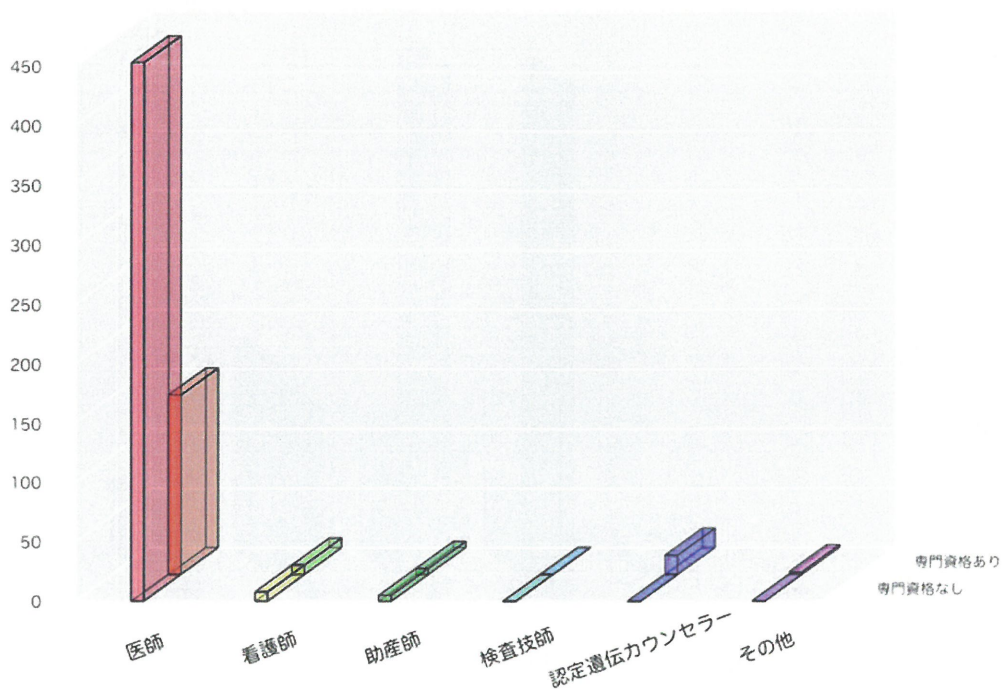


図 56-B

羊水染色体検査後の主な説明担当者  
横向きに和が1

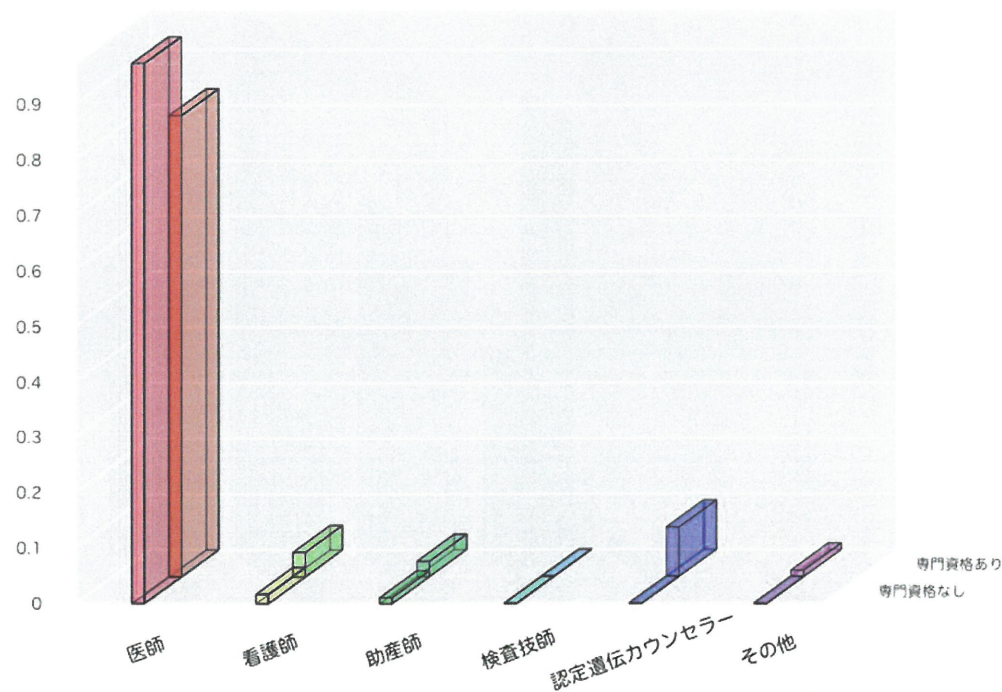


図 57-A

羊水染色体検査の結果が異常核型だった場合の説明時間  
生データ

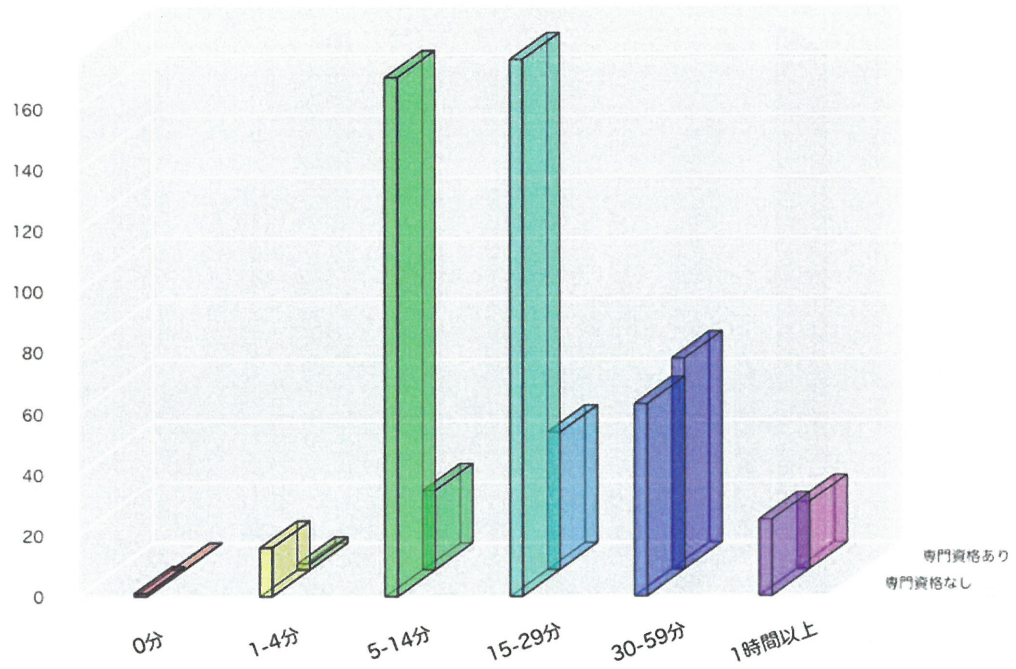


図 57-B

羊水染色体検査の結果が異常核型だった場合の説明時間  
横向きに和が1

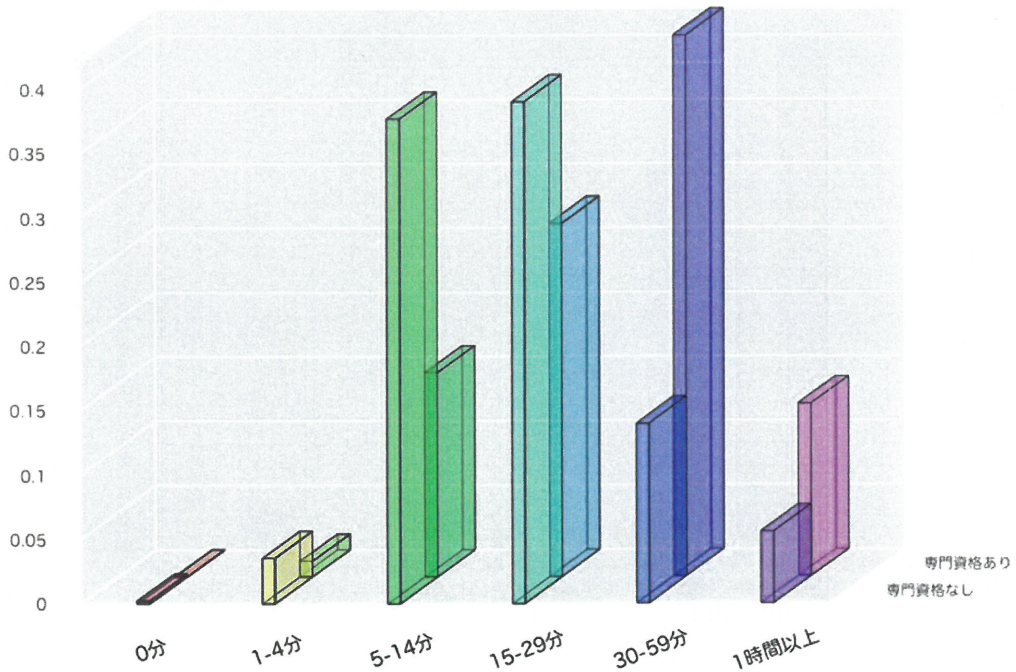


図 58-A

羊水染色体検査の結果が正常核型だった場合の説明時間  
生データ

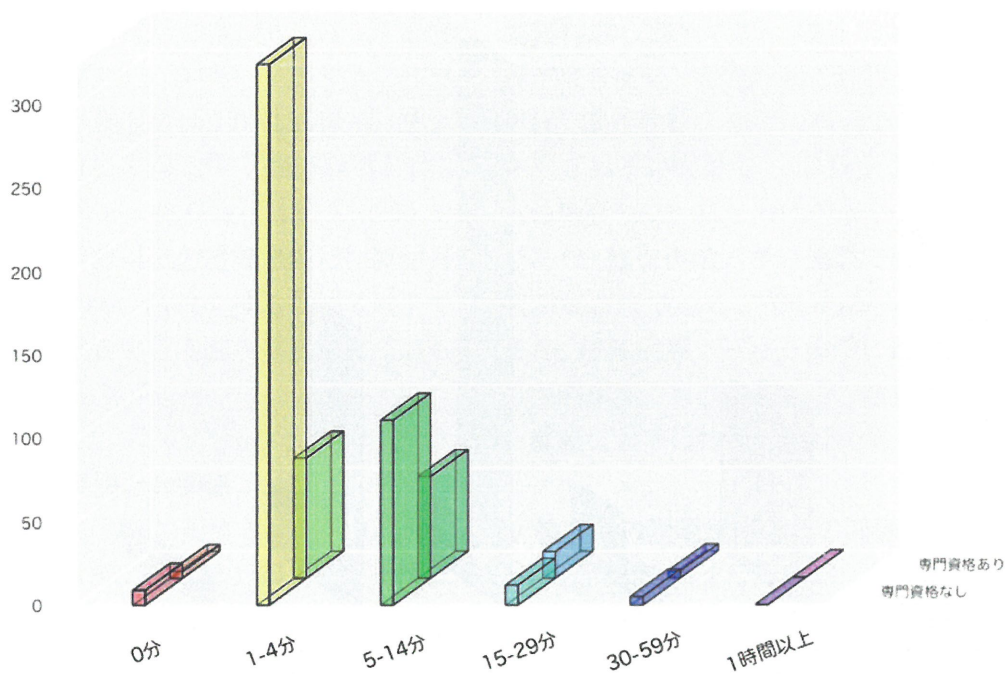


図 58-B

羊水染色体検査の結果が正常核型だった場合の説明時間  
横向きに和が1

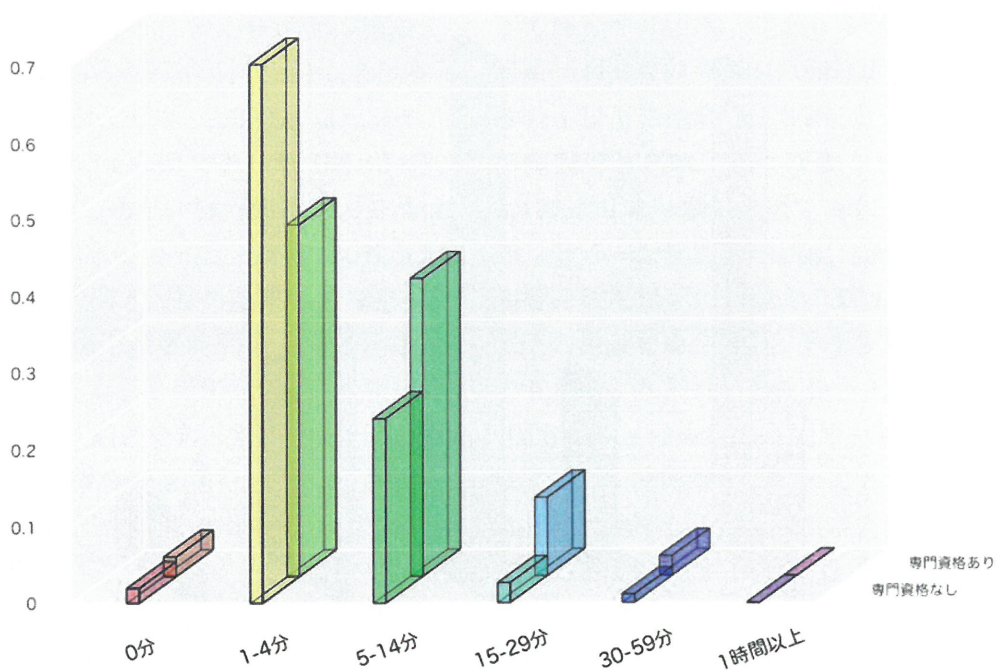


図 59-A

羊水染色体検査結果の説明に苦慮した場合の対応  
生データ

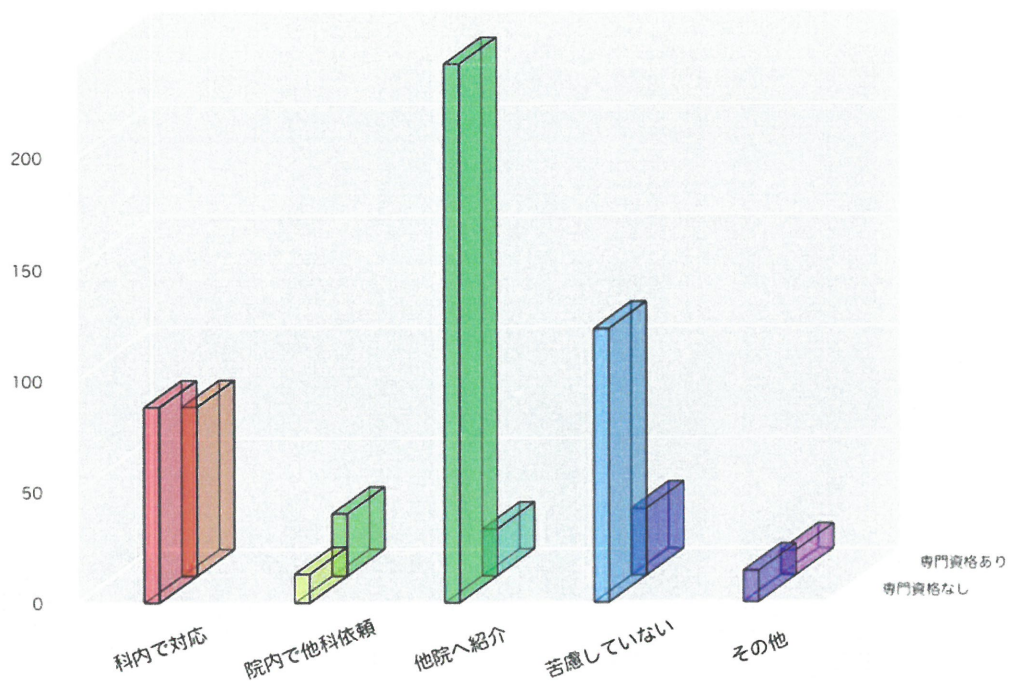
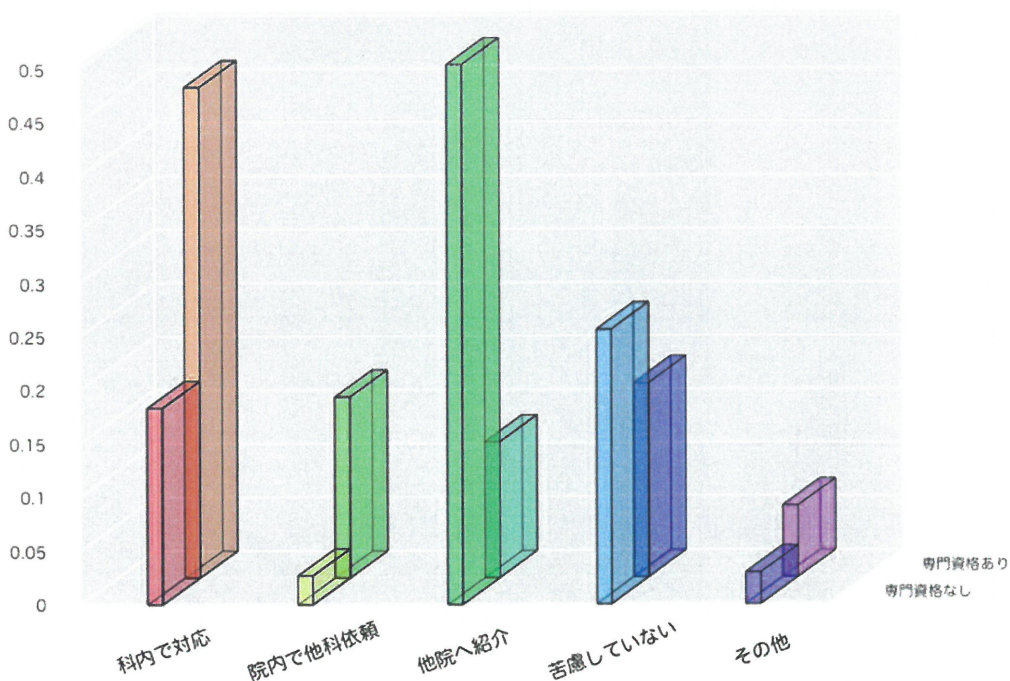


図 59-B

羊水染色体検査結果の説明に苦慮した場合の対応  
横向きに和が1



#### d 施行件数からみた診療の実態

##### i 検査施行件数からみた検査実施施設数

羊水染色体検査を実施している全施設 619 のうち、月あたりの施行件数が 1 以下 (1 を含む) の施設数は 324 (52.34%)、1 より多く 2 以下 (2 を含む) の施設数は 114 (18.42%)、2 より多く 6 以下 (6 を含む) の施設数は 138 (22.29%)、6 より多い施設数は 43 (6.95%) であった (表 7)。半分以上の施設で施行件数が月あたり 1 以下、70%の施設で月あたり 2 以下であり、高頻度に検査を行う施設は限られていることがわかった。

##### ii 検査前の説明時間との関係

検査前の検査の説明に要する時間を、0 分、1-4 分、5-14 分、15-29 分、30-59 分、1 時間以上の 6 段階に分けて、その分布を月あたりの検査施行件数から分類して示すと、図 60-A のようになる。説明時間の 6 段階に分けた比率は、施行回数 1 以下の施設：0%、8.33%、52.47%、26.23%、11.73%、0.93%、1 より多く 2 以下の施設：0%、6.14%、60.53%、24.56%、10.53%、3.51%、2 より多く 6 以下の施設：0%、7.25%、51.45%、28.26%、11.59%、2.90%、6 より多い施設：0%、2.33%、37.21%、37.21%、18.60%、4.65%であった (図 60-B)。最頻値は 5-14 分であり、施行件数による差はみられない。母体血清マーカー検査での検査前の説明に要する時間と同様の結果であるが、羊水染色体検査の場合は長時間の占める比率が高くなる傾向があり、その傾向は、検査施行件数の多い施設ほど顕著であった。月に 6 回よりも多く羊水染色体検査を施行している施設では、15~29 分と 5~14 分の比率は同等であった。

##### iii 診療枠との関係

検査前の説明を行う診療枠を、一般外来、専門外来、入院、その他の 4 群に分け、月あたりの検査施行件数別に検討した (図 61-A)。検査施行件数に関わらず一般外来で説明を行う施設が最も多い。専門外来で説明を行う施設の比率は、施行件数 1 以下の施設で 5.86%、1 より多く 2 以下の施設で 14.04%、2 より多く 6 以下の施設で 23.91%、6 より多い施設で 48.84% であり、施行件数の多い施設で専門外来での説明がなされていることがわかった (図 61-B)。また、母体血清マーカー検査に比し専門外来での説明が多くなされており、検査施行件数の多い施設ほどその特徴が明瞭である。

##### iv 検査前の説明担当者との関係

検査前の説明を行う職種については、検査施行件数に関わらず、医師が行うのが主である。検査施行件数が多くなるにしたがって、看護師、助産師の関与が多くなることが示された (図 62-A)。看護師が検査前の説明に関与する比率は、施行件数 1 以下の施設で 1.85%、1 より多く 2 以下の施設で 1.75%、2 より多く 6 以下の施設で 4.35%、6 より多い施設で 2.33%、助産師が検査前の説明に関与する比率は、施行件数 1 以下の施設で 1.85%、1 より多く 2 以下の施設で 2.63%、2 より多く 6 以下の施設で 2.17%、6 より多い施設で 4.65%、認定遺伝カウンセラーが検査前の説明に関与する比率は、施行件数 1 以下の施設で 0.93%、1 より多く 2 以下の施設で 1.75%、2 より多く 6 以下の施設で 5.80%、6 より多い施設で 18.60%であった (図 62-B)。母体血清マーカー検査の結果と比較すると、看護師、助産師による説明が行われる施設の比率が小さく、認定遺伝カウンセラーによる説明が行われる施設の比率が特に検査施行件数の多い施設で大きい傾向がみられた。



## v 説明資料との関係

検査前の説明を行う際に用いる資料については、検査施行件数に関わらず、自施設で作成した独自の資料を使用する施設が最も多い。検査施行件数が多くなるにしたがって、施設独自の資料を使用する施設の比率がさらに大きくなり、資料を使用しない施設の比率が小さくなることわかる（図 63-A）。検査前の説明に企業が作成した資料を使用する施設の比率は、施行件数 1 以下の施設で 24.38%、1 より多く 2 以下の施設で 15.79%、2 より多く 6 以下の施設で 21.01%、6 より多い施設で 13.95%、施設独自の資料を作成する施設の比率は、施行件数 1 以下の施設で 48.46%、1 より多く 2 以下の施設で 64.04%、2 より多く 6 以下の施設で 68.12%、6 より多い施設で 88.37%、資料を使用しない施設の比率は、施行件数 1 以下の施設で 27.47%、1 より多く 2 以下の施設で 21.05%、2 より多く 6 以下の施設で 13.04%、6 より多い施設で 2.33%であった（図 63-B）。

## vi 説明内容との関係

検査前の説明における説明内容については、全体的にみて、妊婦が心配している疾患についての説明と母体血清マーカー検査が倫理的問題を含んでいる点についての説明の頻度が低い傾向がみられる（図 64-A）。検査施行件数が多くなるにしたがって、これらの点についての説明の頻度の上昇がみられた。妊婦が心配している疾患についての説明を行う施設の比率は、施行件数 1 以下の施設、1 より多く 2 以下の施設、2 より多く 6 以下の施設、6 より多い施設の順に、67.59%、69.30%、73.19%、88.37%であった。検査が倫理的問題を含んでいる点についての説明を行う施設の比率は、施行件数 1 以下の施設、1 より多く 2 以下の施設、2 より多く 6 以下の施設、6 より多い施設の順に、57.10%、63.16%、61.59%、79.07%であった（図 64-B）。

## vii 検査後の説明担当者との関係

検査後の説明を行う職種については、検査前の説明と同様に、検査施行件数に関わらず、医師が行うのが主である。月あたりの施行件数が 6 より多い施設で、認定遺伝カウンセラーが関与する比率の上昇がみられた（図 65-A）。看護師が検査後の説明に関与する比率は、施行件数 1 以下の施設で 2.47%、1 より多く 2 以下の施設で 2.63%、2 より多く 6 以下の施設で 2.17%、6 より多い施設で 4.65%、助産師が検査前の説明に関与する比率は、施行件数 1 以下の施設で 1.54%、1 より多く 2 以下の施設で 0.88%、2 より多く 6 以下の施設で 1.45%、6 より多い施設で 4.65%、認定遺伝カウンセラーが検査前の説明に関与する比率は、施行件数 1 以下の施設で 1.23%、1 より多く 2 以下の施設で 0.88%、2 より多く 6 以下の施設で 5.07%、6 より多い施設で 9.30%であった（図 65-B）。

## viii 検査後の説明時間との関係

検査後の結果の説明に要する時間を、0 分、1-4 分、5-14 分、15-29 分、30-59 分、1 時間以上の 6 段階に分けて、その分布と月あたりの検査施行件数との関係を検討した。

染色体検査結果が異常核型であった場合、検査施行件数が 6 以下の施設では検査後の説明時間の最頻値は 15-29 分であったのに対し、検査施行件数が 6 より多い施設での最頻値は 30-59 分であった（図 66-A）。検査後説明時間を 6 段階に分けた比率は、施行件数 1 以下の施設では、それぞれ 0.31%、3.09%、34.26%、34.57%、14.81%、6.79%、1 より多く 2 以下の施設では、それぞれ 0%、2.63%、34.21%、36.84%、24.56%、7.89%、2 より多く 6 以下の施設では、それぞれ 0%、3.62%、28.26%、38.41%、26.81%、6.52%、6 より多い施設では、それぞれ 0%、0%、16.28%、32.56%、44.19%、16.28%であった（図 66-B）。

染色体検査結果が正常核型であった場合、検査施行件数に関わらず、検査後の説明時間の最頻値は1-4分であった(図67-A)。検査後説明時間を6段階に分けた比率は、施行件数1以下の施設では、それぞれ2.47%、66.05%、25.31%、3.70%、1.23%、0%、1より多く2以下の施設では、それぞれ0.88%、60.53%、33.33%、5.26%、0.88%、0%、2より多く6以下の施設では、それぞれ2.90%、68.12%、23.91%、3.62%、2.17%、0%、6より多い施設では、それぞれ0%、44.19%、44.19%、11.63%、2.33%、0%であった(図67-B)。

#### ix 説明に苦慮した場合の対応との関係

説明に苦慮した場合の対応について、自科内

で対応、施設内の他科で対応、他施設に依頼する、苦慮することはない、その他の5項目に分類して解析した(図68-A)。施行件数1以下の施設でのこれら5項目の比率は、それぞれ17.90%、4.01%、49.69%、27.47%、2.78%、施行件数が1より多く2以下の施設では、それぞれ31.58%、5.26%、40.35%、24.56%、3.51%であり、他施設への依頼が最も多かった。それに対し、施行件数が2より多く6以下の施設では、それぞれ34.78%、9.42%、34.78%、22.46%、4.35%と、他施設への依頼と自科内での対応との回答が同率であり、施行件数が6より多い施設では、それぞれ51.16%、20.93%、18.60%、11.63%、13.95%と、自科内での対応との回答が最も多かった(図68-B)。